

盛一大が
世界選スクラッチで
銅メダルの快挙!



シクリスムエコー No.168 2010年4月号



平成 22 年度 事業計画 2
2010 年トラック世界選手権大会 4
各地で行われた強化合宿 5



第35回チャレンジサイクルロードレース大会 6
2010年ニュージーランド女子遠征 8

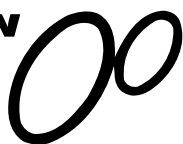


平成 21 年度全国高等学校選抜自転車競技大会 10
Youth Olympic Games 合宿 11
第 1 級公認審判員講習会の結果について 11
JCF 推奨ヘルメット (新制度) についてお知らせ 11

2010 ツール・ド・台湾 12
アジア選手権選考合宿並びに女子強化合宿 14
第 30 回アジア・第 17 回アジアジュニア選手権選手団 14
2010 年版 J C F 競技規則集 14
競技大会結果 15
JCF 専門委員会・新委員のお知らせ 15
ツアー・オブ・タイランド 2010 日本代表選手団 15
JCF 維持会員のお願い 16
広報誌「シクリスムエコー」定期購読のご案内 16
加盟団体事務局変更のお知らせ 16
事務局人事異動 16
連盟の動き 16



KEIRIN



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。

<http://ringring-keirin.jp>

平成22年度 事業計画

財団法人 日本自転車競技連盟

今年度は、公益法人制度改革の締切りまで余すところ4年を切ることとなるが、競輪補助金のさらなる削減と自己負担金の大幅な増額に加えリーマンショックに端を発した経済不況など連盟を取り巻く環境の厳しさを認識せざるを得ない状況である。

一方「エコロジー」ブームから自転車を取り巻く追い風を敏感に感じる今だからこそ、我々は各種補助金に頼らない健全な財務体質を構築することにより、我が国における自転車競技界を統括し代表する団体として、永続的に公益財団法人として活動できるよう、各々が持てる能力を最大限に発揮して、法人制度改革の申請を視野に置き、別紙改革プロジェクトを推進していくと共に、以下に記載する諸業務も並行して実施していくこととしたい。

I. 事業計画概要

〔総務部〕

本年度は、評議員会、理事会及び常務理事会並びに総務委員会を通して、適正・円滑な運営を図ると共に従来にも増して機関誌「シクリズムエコー」及びホームページによる外部への発信等本来業務の遂行を確実に実施する。

また、改革プロジェクトの中で、公益法人制度改革を始め、自主財源の確保、管理費におけるゼロベースでの見直し等、総務部に関わるウエイトが大きく占めていることを十分に認識すると共に、競輪他各種補助金についても補助効果をしっかりと高めていくことも意識していく。

〔業務部〕

自転車競技の社会的地位を確立するには、当事者としてまず現状の危機を再認識することから始まる。

一方、「自転車」に注目が集まっている今、これをブームで終わらせずに競技の素晴らしさ、走る、観る楽しさを知ってもらうことによって競技の地位を確立するいいチャンスでもある。

その実現のためには、組織が一丸となり、地域から全国へ広めるための取り組みが必要である。

まず、地域における住民、行政との連帯を深め、それを全国規模に繋げるために如何に地域を活性化するか、その対策が課題となる。

そのためには、各大会の位置付けを明確にしてトップへの過程を示すことにより競技の認知度も上がり、観客の動員そし

て低年齢層競技者の拡大に繋がる。

〔選手強化部〕

本年度は、11月に第16回アジア大会(2010/広州)が開催されることから、新コーチングスタッフの下、メダル獲得に向け重点的に選手強化を図る。

トラック競技においては、次回ロンドンオリンピックの出場枠獲得システムが北京オリンピックと異なり、前回はオリンピック前1年間のUCIポイントランキングで決定されていたが、今回はオリンピック前2年間の世界選手権大会、ワールドカップ、大陸選手権大会に限ったポイントランキングで決定されることとなった。本連盟ナショナルチームにおいてもこの変更に対応すべく、出場枠獲得に向けた選手強化を図る。

さらに、次回ロンドンオリンピックよりトラック実施種目において男女同一種目を採用したことから、女子競技者の選手強化並びに育成に努める。

また、次回ロンドンオリンピックに向けたナショナルチーム・強化指定選手の編成を目的に、チャレンジ・ザ・オリンピックを実施する。

併行して、(財)日本オリンピック委員会並びに国際自転車競技連合との連絡を密にし、その情報収集を図り、万全の体制で臨めるよう努める。

ロード競技においては、U23の強化指定選手を中心に国際大会に派遣し、選手強化に努める。

マウンテンバイク、BMX競技等においては、強化指定選手を中心に国内合宿を積極的に実施し、国際大会で好成績が収められるよう選手の強化並びに育成に努める。

ジュニアについては、2010年ジュニア世界選手権及びジュニア国際大会に積極的に派遣し、好成績が得られるよう選手強化を図る。

〔国際事業推進室〕

国外へのチーム派遣のみならず審判員を含めた多様な国外競技活動や、国内での国際大会開催、国際化を視野に入れたチーム等の体制の整備など、多年にわたり国際的活動は増加してきた。

この状況下に、わが国の自転車競技の健全な継続的発展のために、国内、国外から評価される高いブランド力が求められる。

そのために国際的競技大会の質を高め、さらに国内大会に反映させるためにも、国際的な情報の収集、共有、発信と

もに実践していくことも重要である。

これらのことを踏まえて、国際事業推進室は、本連盟諸事業の場において、人材の発掘、養成、登用、資料、文書の2ヶ国語(日本語・英語)化、国内外の情報の収集、優れたシステムの導入、対外(国内外)的な情報の蓄積および公開、そしてこれらのための事務局内での情報の共有化および実践のための施策を推進する。

そして、これらの円滑な推進のため、関係者、関係団体との良好で緊密な協力関係を涵養すべく活動する。

実施事業については以下のとおりである。

II. 実施事業

1. 国内競技大会関係事業

- (1) 全日本自転車競技選手権大会
(トラック、ロード、個人TTロード、Jrロード、室内自転車、マウンテンバイク、シクロクロス、BMX)
- (2) その他国内大会
(全アマトラック、全アマロード、JOCジュニアオリンピック、全国都道府県対抗)

2. 国内での国際競技大会事業

- (1) 2010熊本国際ロード
- (2) ACCトラックアジアカップ2010
日本ラウンド
- (3) 日韓対抗学生自転車競技大会

3. 国際競技大会関係事業

- (1) 世界選手権自転車競技大会
(トラック、ロード、マウンテンバイク、BMX、室内自転車、シクロクロス、Jrトラック、Jrロード)選手派遣
- (2) アジア大会派遣支援事業
- (3) アジア自転車競技選手権大会選手派遣
- (4) ワールドカップ大会選手派遣
- (5) 2010年国際グランプリケイリン派遣
- (6) ACCトラックアジアカップ2010選手派遣
- (7) 国際会議への派遣

4. 加盟団体関係事業

- (1) 都道府県連盟関連事業
 - ① 幼児対象事業
 - ② 初心者教室
 - ③ 女子競技者
 - ④ 友の会
 - ⑤ 記録会
 - ⑥ ケイリン種目普及

- ⑦全国都道府県別自転車競技選手権大会（47都道府県）
- ⑧全国地域別トラックレース大会（8地域）
- ⑨連絡会議
- (2)日本プロフェッショナルサイクリスト協会関連事業
- ①全日本プロフェッショナル自転車競技選手権大会等
- ②プロサイクリスト強化事業
- ③国際競技大会事業
- (3)全国高等学校体育連盟自転車競技専門部関連事業
- ①全国高等学校選抜自転車競技大会（トラック、ロード）
- ②全国高等学校自転車競技合宿（ブロック・全国）
- (4)日本学生自転車競技連盟関連事業
- ①全日本学生選手権自転車競技大会（トラック、ロード、チームロード）
- ②全日本大学対抗選手権自転車競技大会
- (5)全日本実業団自転車競技連盟関連事業
- ①全日本実業団対抗サイクルロードレース大会
- ②全日本実業団自転車競技選手権大会
- ③東西地域別実業団（トラック、ロード）

- ④全日本実業団サイクルロードレース in 石川大会

5. アンチドーピングの推進事業

全日本選手権大会等主要大会において、ドーピング検査を実施し、アンチドーピングを積極的に推進する。

6. 強化・普及事業

- (1)選手強化事業
- (2)全国自転車競技指導担当者研修会・審判講習会
- (3)自転車競技の普及・広報事業
- (4)ケイリン種目等指導普及事業（全国高等学校体育連盟自転車競技専門部、日本学生自転車競技連盟、全日本実業団自転車競技連盟）
- (5)広報誌発行事業
- (6)チャレンジ・サイクルロードレース大会
- (7)冊子改訂
- (8)ホームページ改訂
- (9)開催準備マニュアル
- (10)未登録者推進に係るシステム改修
- (11)調査研究（他競技団体の活動調査）

7. 委員会活動事業

- (1)国内競技大会に関する委員会活動

- (2)国際競技における制度等に関する委員会活動
- (3)選手強化等に関する委員会活動
- (4)登録システムの整備

8. 2014年トラック世界自転車競技選手権大会招致準備

Ⅲ. 共催事業の実施

- (1)第14回ツアー・オブ・ジャパン（自転車月間推進協議会他）
- (2)ツール・ド・おきなわ2010（NPO法人ツール・ド・おきなわ協会他）
- (3)ツール・ド・北海道2010（(財)ツール・ド・北海道協会）
- (4)シマノ鈴鹿国際ロードレース大会（(株)シマノ）
- (5)平成22年度全国高等学校総合体育大会（(財)全国高等学校体育連盟、沖縄県）
- (6)第65回国民体育大会自転車競技会（文部科学省、(財)日本体育協会、千葉県他）
- (7)日本スポーツマスターズ2010自転車競技（(財)日本体育協会、三重県他）
- (8)第6回全国ジュニア自転車競技大会（四日市サイクルスポーツフェスティバル実行委員会）
- (9)第2回全日本ステージ・レースinいわて（NPO法人岩手県バイコロジーをすすめる会）

収支予算書総括表

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位：円)

科目	一般会計	日本体育協会 補助事業特別会計	国際競技力 向上事業特別会計	初級・中級・上級 事業特別会計	JKA・公益補助 事業特別会計	7歳～75歳 事業特別会計	内部取引消去	合計
I 事業活動収支の部								
1. 事業活動収入								
①基本財産運用収入	950,000	0	0	0	0	0	0	950,000
②特定資産運用収入	450,000	0	0	0	0	0	0	450,000
③会費収入	20,000,000	0	0	0	0	0	0	20,000,000
④事業収入	36,100,000	0	0	0	0	0	0	36,100,000
⑤補助金等収入	59,241,680	6,000,000	32,790,000	3,200,000	522,000,000	19,679,000	0	642,910,680
⑥負担金等収入	4,550,000	0	7,691,000	0	0	967,900	0	13,208,900
⑦寄付金収入	500,000	0	0	0	0	0	0	500,000
⑧雑収入	2,000,000	0	0	0	0	0	0	2,000,000
⑨他会計からの繰入金収入	0	0	8,704,000	0	24,423,000	3,442,185	△36,569,185	0
事業活動収入計	123,791,680	6,000,000	49,185,000	3,200,000	546,423,000	24,089,085	△36,569,185	716,119,580
2. 事業活動支出								
①事業費支出	41,191,680	6,001,000	49,185,000	3,200,000	546,423,000	24,089,085	0	670,089,765
②管理費支出	107,554,000	0	0	0	0	0	0	107,554,000
③他会計への繰入金支出	36,569,185	0	0	0	0	0	△36,569,185	0
事業活動支出計	185,314,865	6,001,000	49,185,000	3,200,000	546,423,000	24,089,085	△36,569,185	777,643,765
事業活動収支差額	△61,523,185	△1,000	0	0	0	0	0	△61,524,185
II 投資活動収支の部								
1. 投資活動収入								
①特定資産取崩収入	65,523,185	0	0	0	0	0	0	65,523,185
投資活動収入計	65,523,185	0	0	0	0	0	0	65,523,185
2. 投資活動支出								
①特定資産取得支出	3,000,000	0	0	0	0	0	0	3,000,000
投資活動支出計	3,000,000	0	0	0	0	0	0	3,000,000
投資活動収支差額	62,523,185	0	0	0	0	0	0	62,523,185
III 予備費支出								
①予備費支出	1,000,000	0	0	0	0	0	0	1,000,000
当期収支差額	0	△1,000	0	0	0	0	0	△1,000
前期繰越収支差額	252,473,039	6,338,339	3,592,211	25,029,440	0	0	0	287,433,029
次期繰越収支差額	252,473,039	6,337,339	3,592,211	25,029,440	0	0	0	287,432,029

2010年トラック世界選手権大会

盛がスクラッチで銅メダル獲得!



スクラッチ銅の盛

今回はパースで調整合宿をして世界選手権に望んだ。その合宿で成田和也が腰を痛め、急遽欠場し短距離3名と中距離2名が今回挑んだ。

1日目はチームスプリントから始まった。第1走新田雄大は18.072で通過し、第2走渡辺一成は13.329、第3走浅井康太は13.735で走りきった。タイムは45.39で10位であった。それぞれの通過順位は10、11、11位と言う次第である。

次のポイントレースは飯島誠が果敢にラップを取ろうとアタックしたが、やはり世界選手権迄勝ち上がった精鋭だけあり決まらず、その中で着実にラップをし点数を積み上げて優勝はオーストラリアのメイヤー。飯島は価値ある10位入賞を果たした。

大会2日目、ケイリン浅井は1次予選4着、敗者復活1位通過。渡辺はそれぞれ7着、3着と敗れた。注目の2次予選で浅井はクリスホイを相手に戦い、6位で決勝には進めず7~12位決定戦に進んだが、バイクペーサーの後輪後端を追い抜き失格した。



チームスプリント

スクラッチレースの盛一大は、デンマークのラスムッセンと共にラップに成功し、その後にラップしたコロンビアのアランゴとの3人のゴール勝負となったが惜しくも3位となった。盛はロード中心の練習をトラック中心に切り替え、今回優勝を狙い参加した。ワールドカップでこの種目、優勝経験もある盛は17年ぶりの世界選手権メダル獲得・3位の快挙を達成した。

大会3日目は新田の1kmTTであった。タイム1.03.762で21位。オランダのムルダーが1.00.341で優勝した。

4日目はスプリント予選で、渡辺、新田、浅井の3人が参加。46名中予選通過の24位を狙い挑戦したが、渡辺は10.362で27位、新田は10.429で29位、浅井康太は10.661で39位と予選通過はならなかった。

5日目、盛がオムニウムに初挑戦した。結果は18位だったが、初挑戦でもあり貴重な経験になった。初めの200mTTは11.145で15位、次はスクラッチ10kmで12位。200mTTでリズムを崩した様に見えた。続いて3kmは3.33.432で18位、ポイントレース11位、1kmTTは1.08.369で18位と健闘はした。

2010年世界選手権は終了した。スクラッチレースの盛3位、飯島のポイントレース10位と中距離の健闘が光った。彼らの日頃の努力が報われた。一方、短距離は停滞している。これは無いに越した事はないが、長い流れの中では必ずある期間である。選手は目的意識はしっかりしているの、4月からロンドンに向けて確実に進んでいく。(阿部 良二)

【競技結果】

2010年UCIトラック世界選手権大会 (2010/3/24-28 デンマーク・コペンハーゲン)

男子スプリント

- | | | | |
|----|---------------|--------------|------|
| 1 | BAUGE Gregory | FRA | |
| 2 | PERKINS Shane | AUS | |
| 3 | SIREAU Kevin | FRA | |
| 27 | 渡辺 一成 | JPCA JPCU 福島 | 予選敗退 |
| 29 | 新田 祐大 | JPCA JPCU 福島 | 予選敗退 |
| 39 | 浅井 康太 | JPCA JPCU 三重 | 予選敗退 |

男子ケイリン

- | | | | |
|----|-------------------|--------------|-------|
| 1 | HOY Chris | GBR | |
| 2 | AWANG Azizulhasni | MAS | |
| 3 | LEVY Maximilian | GER | |
| 17 | 渡辺 一成 | JPCA JPCU 福島 | 1回戦敗退 |
| | 浅井 康太 | JPCA JPCU 三重 | DSQ |

男子スクラッチ (15km)

- | | | | |
|---|------------------------------|---------|--|
| 1 | RASMUSSEN Alex | DEN | |
| 2 | ARANGO CARVAJAL Juan Esteban | COL | |
| 3 | 盛 一大 | 愛知 愛三工業 | |

男子ポイントレース (40km)

- | | | | |
|----|---------------|--------------|-----|
| 1 | MEYER Cameron | AUS | 70p |
| 2 | SCHEP Peter | NED | 33p |
| 3 | KADLEC Milan | CZE | 27p |
| 10 | 飯島 誠 | JPCA BS アンカー | 8p |

男子ムニオン

- | | | | |
|----|----------------|---------|-----|
| 1 | CLANCY Edward | GBR | 24p |
| 2 | HOWARD Leigh | AUS | 32p |
| 3 | PHINNEY Taylor | USA | 33p |
| 18 | 盛 一大 | 愛知 愛三工業 | 74p |

男子チームスプリント

- | | | |
|----|-------------|--------|
| 1 | ドイツ | 43.433 |
| 2 | フランス | 43.453 |
| 3 | イタリア | 43.590 |
| 10 | 日本 新田・渡辺・浅井 | 45.136 |

2010年UCIトラック世界選手権大会
日本代表選手団

大会名 2010年UCIトラック世界選手権大会
開催場所 デンマーク・コペンハーゲン
大会期間 2010年3月24日~28日
派遣期間 2010年3月19日~30日
代表選手団

総監督 班目 秀雄 (JCF ナショナルコーチ)

監督 阿部 良二 (JCF 強化コーチ)

メカニック 森 昭雄 (JCF 強化スタッフ)

マッサー 柳 浩史 (JCF 強化スタッフ)

石田 宗男 (JCF 強化スタッフ)

通訳 野波 真琴

総務 山田 克彦 (JCF 事務局)

選手 渡辺 一成 (JPCA・福島)

新田 祐大 (JPCA・福島)

浅井 康太 (JPCA・三重)

飯島 誠 (JPCA・プリヂストン・アンカー)

盛 一大 (愛知・愛三工業レーシングチーム)

※成田 和也 (JPCA・福島) は体調不良のため欠場

各地で行われた強化合宿

トラック強化合宿(前橋)

2月11日(木)から14日(日)まで群馬県のグリーンドーム前橋でトラックの強化合宿が行われた。

この合宿は世界選(コペンハーゲン)に向けての強化トレーニングのための合宿と、新たな試みとしてロンドンオリンピックを見据えたタレント発掘を目的としたもので若手有望選手を選抜して今回テスト生として4名の選手が合宿に参加した。

参加選手は、ナショナルチームの渡邊一成(JPCA・福島)、坂本貴史(JPCA・青森)、飯島誠(JPCA・ブリヂストンアンカー)とテスト生の上原 龍(JPCA・長野)、才迫勇馬(JPCA・広島)、井上 嵩(JPCA・東京)と昨年ジュニア世界選女子ポイント3位の上野みなみ(青森・八戸工業高校)の計7名。

季節柄、降雪をみたが、屋内競技場で天候に左右されずトレーニングメニューをこなすことができた。合宿は永友コーチによるウエイトトレーニングやJISS(国立スポーツ科学センター)のバイオメカニクスチーム協力によるスタート時の動作解析等も行われた。

(班目 秀雄)



トラック強化合宿(宮崎)

2月26日から3月4日まで、2010年アジア選手権大会派遣選考合宿(エリート男子トラック中距離、エリート女子)として、トラック強化合宿が宮崎で行われた。

[合宿参加選手 14名]

●男子

高橋 翔太・窪木 一茂・伊藤 雅和・佐々木 龍・元砂 勇雪

●女子

篠崎 新純・石井 寛子・和田見里美・井上 玲美・松尾 智佳
近藤 美子・前田佳代乃・小島 蓉子・野村くるみ

トラック強化合宿(オーストラリア)

3月24日から28日までのコペンハーゲン世界選手権に向けた強化合宿が9日から17日までオーストラリアのパーズで行われた。連日の猛暑ではあったが室内競技場の良さを改めて体験できた合宿でもあった。

バンク練習は午前9時半から2時間、午後は14時から2時間30分の限られた時間で短・中距離分離して練習した。短距離はスターティングブロックを使いスタートとダッシュ練習を重点に、中距離はスピードと持久力強化を目標に行った。

空いた時間はリカバリーとロード練習とし消化していった。短距離選手はG1レース終了直後で、中距離選手も大会、強化合宿直後の合宿でまずは疲労回復を目指し軽めの練習から入った。

短距離ではチームスプリントのスタート、三人の呼吸合わせ。中距離はオリンピック種目になったオムニウムレース種目一つ、200mTTの助走、踏み出し、走行コースを、スプリント選手の後ろに付き目標にし、繰り返し練習した。

この競技場は郊外にありホテルは更に18km離れ、アップ、リカバリー、ロード練習もすぐ対応できる最適な環境で、ブドウ畑、牧場など心休まる風景が散在し、疲れた体を和ませてくれる。この暖かい環境の中で世界選手権に向け有意義な強化合宿が出来た。

(阿部 良二)



ジュニア強化合宿レポート (第3回ジュニア・トラック強化合宿/ 第4回ジュニア・ロード強化合宿)

今年1月に行われたジュニア・ロード強化合宿に続き、4月にUAEで開催されるジュニアアジア選手権の日本代表を選考する強化合宿が2月10日から15日まで宮崎県で開催された。今回はトラックとロードが初めて合同で行われ、トラックは宮崎県総合運動公園自転車競技場、ロードは宮崎市周辺の道路で実施された。

合宿期間中、宮崎はあまり天気恵まれず肌寒い日々が続いたが、概ね予定されたメニューを消化する事が出来、ジュニアアジア選手権の代表候補選手が選考された。

また、今回の合宿でジュニア(トラック・ロード)強化指定選手のメンバーが再編され、男子トラック12名、女子トラック2名、男子ロード12名、女子ロード3名、強化育成1名が決定された。今後は、2010ジュニア強化指定選手・年間計画に従い、ジュニア選手の強化育成が計られる。今後のジュニア選手の活躍を期待していただきたい

(ジュニア強化育成部会長 坂井田 米治)



第35回チャレンジサイクルロードレース大会

平成 22 年度の開幕戦は愛三工業の綾部が勝利!



春休み最後の日曜日の4月4日、伊豆の日本サイクルスポーツセンターの5kmサーキットにおいて、第35回を数えるチャレンジサイクルロードレースが開催され、A・B部門合わせて、843名が出走した。

注目のA-Eクラスは、あいにくツアー・オブ・タイランドと日程が重なったため、コンチネンタルチームの参加が少ないレースとなった。

レースは、宇都宮ブリッツェンの長沼やブリヂストンの金子などのアタックがあったものの、結局集団のまま最終周回にはいり、フィニッシュは愛三工業の綾部の単独ゴールとなった。



A-Eのメイン集団



心臓破りの坂を行く A-E の集団 (先頭から二人目が優勝の綾部)



単独ゴールの綾部



片山を追う A-F のメイン集団



A-M 男子を力強く抜き去る、A-F 勝者の片山



A-Mの勝者 屋部(右)と3位鈴木



A-Jクラスの勝者 六峰



A-Uのゴールスプリント(左が勝者の巖田)



すっかり定着したB-C1クラス

【競技結果】

**第35回チャレンジサイクルロードレース
(2010/4/4 静岡・日本CSC5km J-ス)**

A-E (60km)

- 1 綾部 勇成 JPCA 愛三工業 1:42:16.76
- 2 真鍋 和幸 香川 マトリックス 1:42:27.05
- 3 向川 尚樹 大阪 マトリックス 1:42:32.51
- 4 岩島 啓太 東京 なるしま 1:42:32.64
- 5 山下 貴宏 兵庫 マトリックス 1:42:32.69
- 6 松田 究 北海道 どうきゅう 1:42:32.70
- 7 柵尾 大知 東京 パールイスミ 1:42:32.80
- 8 長沼 隆行 栃木 ブリッフェン 1:42:32.81
- 9 清宮 洋幸 千葉 イスレ-17 1:42:32.87
- 10 武末 真和 千葉 東都生協 1:42:33.03

A-U (40km)

- 1 巖田 義明 埼玉 BSエスポワール 1:07:38.25
- 2 平塚 吉光 静岡 シマノ 1:07:38.42
- 3 雨宮 正樹 山梨 日本大学 1:07:48.45
- 4 入部 正太郎 奈良 早稲田大 1:07:48.45
- 5 平井 栄一 神奈川 BSエスポワール 1:07:48.61
- 6 小段 亮 長崎 東京都市 1:07:48.61
- 7 寺崎 武郎 福井 BSエスポワール 1:07:48.76
- 8 武田 耕大 埼玉 ヘルマレ 1:07:48.78
- 9 高橋 将輝 茨城 日本大学 1:07:49.13
- 10 椿 大志 東京 BSエスポワール 1:07:49.35

A-J (40km)

- 1 六峰 亘 大分 - 1:09:31.14
- 2 渡辺 青慈 奈良 奈良北高 1:09:31.31
- 3 山本 隼 山梨 甲府工高 1:09:54.69

- 4 徳田 鍛造 京都 北桑田高 1:10:14.51
- 5 谷 尚樹 奈良 朝日大学 1:10:14.93
- 6 中井 俊亮 奈良 榛生昇陽 1:10:17.22
- 7 長瀬 幸治 埼玉 栄北高校 1:10:34.82
- 8 和田 力和 歌山 日本大学 1:10:40.81
- 9 松本 耀介 兵庫 三田学園 1:10:40.82
- 10 深瀬 泰我 静岡 伊豆総合 1:10:40.96

A-M (40km)

- 1 屋部 佳伸 静岡 フィッツ 1:09:52.68
- 2 大野 二美雄 東京 大野写真 1:09:53.27
- 3 鈴木 和典 東京 日本ビソ 1:10:07.22
- 4 浜頭 恭 東京 伊藤忠 1:10:22.99
- 5 山本 敬 神奈川 Esperance 1:10:25.00
- 6 追川 雅弘 神奈川 オーベスト 1:13:13.89
- 7 武田 秀明 長野 イナメ 1:13:43.78
- 8 善波 昭 東京 デュプロ 1:13:43.78
- 9 浅倉 則之 東京 JRE設計 1:13:47.71
- 10 福田 雅彦 兵庫 - 1:13:50.76

A-F (20km)

- 1 片山 梨絵 神奈川 Specialized 38:57.58
- 2 明珍 裕子 岐阜 朝日大学 39:27.67
- 3 井上 玲美 東京 チムフォーカス 39:51.84
- 4 森田 正美 神奈川 BSアンカー 39:51.86
- 5 星川 恵利奈 香川 看護専門 39:51.91
- 6 西 加南子 千葉 - 39:52.12
- 7 福本 千佳 大阪 履正社高 39:52.55
- 8 高橋 奈美 宮城 SEKIみちのく 41:21.99
- 9 中村 友香 奈良 奈良北高 41:22.11
- 10 佐藤 咲子 神奈川 ReadyGoJ. 41:58.62

A-F・J (20km)

- 1 福本 千佳 大阪 履正社高校 39:52.55
- 2 中村 友香 奈良 奈良北高校 41:22.11
- 3 武田 和佳 埼玉 ReadyGoJ. 43:08.23

B-1 (15km)

- 1 野島 遊 大阪 太成学院 27:53.15

B-2 (25km)

- 1 西村 大輝 東京 昭和第一 47:09.87

B-3 (30km)

- 1 藤崎 直哉 神奈川 茅ヶ崎消防 56:41.77

B-4 (25km)

- 1 本柳 隆志 栃木 富士重工 45:15.29

B-5 (15km)

- 1 今田 裕一 神奈川 細山製作 26:43.29

B-6・50歳代 (15km)

- 1 横山 和夫 神奈川 ゼロックス 27:54.97

B-6・60歳代 (15km)

- 1 伊藤 明 東京 リオン 29:05.75

B-7 (15km)

- 1 望月 達子 静岡 ヒノキクラフト 34:37.43

B-C1 (2km)

- 1 佐藤 真那也 愛知 三崎小学校 5:13.48

B-C2 (3km)

- 1 古谷 田貴斗 神奈川 東希望ヶ丘 6:37.16

B-C3 (5km)

- 1 江越 海玖也 神奈川 西柴小学校 11:09.41

2010年ニュージーランド女子遠征

ウィメンズ・ツアーで完走は森田のみ



2月22日

18:30、NZ 航空で成田を出発。翌日現地時間 9:50、クライストチャーチ空港に到着。入国手続きを済ませ荷物を通関させ国内線に乗り換え、目的地ウエリントンに 12:30 に到着。

メカニックと合流してレンタカーを借りホテルに向かう。到着後自転車を組み立て軽い軽食を済ませ、2 時間ほど走りに行く。夕食後のミーティングで上野が、熱っぽく頭痛がすると言うので早く休ませる。夜行移動のため時差ボケと重なり疲れが出たのか、様子を見ながら対応を考えることにした。

2月24日 第1ステージ

Martinborough → Masterton

7:30 起床。朝食を済ませ 9:30 から軽く走り、午後のレースに備える。上野は朝食を食べたものの熱は下がらず頭痛が残っているので、痛み止めを飲ませる。

12:00 にスタート地点までバスで移動、自転車荷物はトラックで輸送。上野はスタート直前まで走らせるつもりでいたが、体調が回復しないため出走を断念してホテルに帰らせる。

14:30 にレーススタート、99.6km、89 名が出走。スタートからスローペースなレース展開となり、20km 地点で予定より 15 分遅れの通過。コミッセルから選手にペースを上げるように指示される。

25km 地点で、西の ATTACK が引きがねとなり ATTACK が繰り返される中、33km 地点直線の道幅が広がった所で、集団のペースが落ちた瞬間落車発生。萩原が巻き込まれ落車したが、ブリヂストンの代車に乗り換えて走る。

37km 地点で 3 名の選手が集団から抜け出し、タイム差 30 秒前後で逃

げるが、44km 地点の上り坂で吸収さる。集団から遅れだす選手が出る中、西と豊岡が集団から遅れるが大差は付かず、下り坂で数人の選手と共にメイン集団に復帰。

60km 地点から始まる上り坂は、ゆるく上り始めるが途中右に曲がってからのラスト 700m が 10% 前後の上

り。ここで豊岡と西が集団から脱落。山岳賞を狙って集団から飛び出した 3 名の選手がスプリントになる。

頂上をメイン集団で通過した森田と少し遅れた片山は、下り坂で数名の選手とトップ集団に復帰。70km 地点でトップ集団は森田と片山を含む 24 名、後続集団とのタイム差は 1 分でラスト 1 キロ通過。

ゴール勝負の経験が少ない二人にとっては、ゴール前の厳しい位置取り争いが出来ず、スプリントはしたものの 3 位以下同タイムのなだれ込みで片山 10 位、森田が 13 位で第 1 ステージが終わった。

激戦を制したのはアメリカナショナルチームの Evans Shelley。豊岡 64 位、西 74 位、萩原 79 位で完走。

2月25日 第2ステージ

Masterton → Palmerston North

10:00 にホテル前をスタートする 114km。昨日落車した萩原が、深く呼吸すると痛みが伴うため走ることをためらっていたが、打撲だけなのでスタートさせる。

パレード走行後、5km 地点でスプリントポイントがあり、序盤から ATTACK の掛け合いとなる積極的なレース展開となった。

25km 地点で 2 名の選手が集団から抜け出す。タイム差を 30 秒前後で逃げる。40km 地点で雨が降り始め気温が下がる中、49km 地点で一人が集団から抜け出したところで萩原が追い、トップ 2 名を追走。54km 地点で逃げていた 2 名に追いつき、萩原を含むトップグループは 4 名となりメイン集団を引き離す。

1 分前後で逃げるレース展開で、87.9km 地点の KOM を 2 位で通過し

た萩原は、落車の痛みをこらえて力走している。萩原をサポートするためサポートカーはトップグループにつく。

79km 地点の下り坂に入った最初のコーナーで、トップを走っていた選手が濡れていた路面でスリップ転倒したところに、萩原が乗り上げたまもや落車転倒。左足を強打したため走行不能と判断、レースを断念して救急車に乗せる。逃げていただけに、落車でのリタイヤは残念な結果であった。

トップ集団でゴールした森田は 8 位、片山 15 位で、昨日に続きスプリントの無さを痛感した。優勝は昨日に続き Evans Shelley で 2 勝目。

2月26日

Palmerston North → Ashurst Circuit

今日は 2 ステージ、午前中 87km のロードレース、午後 11km の個人タイムトライアルが行われた。

第3ステージ

ホテル前からパレード走行で、ゴール地点から正式スタート。スタート直後からニュージーランドの No.87 がアタック。7.4km 地点で吸収されるが同じチームの No.85 が続いてアタック。ステージ狙いで飛び出す選手が多く、序盤から積極的なレース展開となった。

15.3km 地点にスプリント、16.6km 地点に KOM と続き、集団のペースが上がる。周回コースに入り、17km 地点で No.68 がアタック、続いて豊岡がアタックし集団から抜け出す。

25km 地点で前の選手に追いつき、メイン集団とのタイム差 30 秒前後で逃げるトップ 2 名は、31km 地点で豊岡が遅れ集団に吸収される。

直後に 4 名の選手が集団から抜け出し、逃げていた No.68 を吸収しトップグループは 5 名になるが、その後 No.68 が遅れる。

1 分前後で逃げるトップ 4 名とメイン集団とのタイム差は、徐々に詰まるものの辛うじて逃げ切り、4 名のゴール勝負は Digenis Irene が勝利。豊岡 20 位、片山 22 位、森田 38 位、西 65 位に終わった。

第4ステージ (個人TT)

タイムトライアルコースは起伏のあるコース、1 周 11km で行われた。

17:00 スタート予定であったが帰宅ラッシュの交通渋滞のため 30 分遅れ、その後更に 15 分遅れて 17 時 45

分スタートに変更。

総合順位の逆順、30秒間隔で82名がスタート。日本チームは西、豊岡、片山、森田の順でスタート。起伏のあるコースは実力差が歴然と出てしまい、独走力の無い日本チームは片山29位、森田48位、豊岡59位、西78位と総合順位を大きく下げる結果になった。

UCIポイント獲得圏内にいた6位の森田が19位、7位の片山が14位にランクを落とし、西60位、豊岡62位の結果で終わる。優勝はNeben Amber(USA)で、個人総合順位も4秒差で1位になった。

2月27日 第5ステージ

Palmerston North → Masterton

ホテル前から10:00スタートの112km。今回のステージが初めて晴天に恵まれ、5kmのパレード走行後スタート。第2ステージの逆コースを走るコースは、スタートして直ぐに上りが始まり選手を苦しめる。

12km地点、緩い上りから7%前後の上りが2kmほど続き集団が大きく分かれ、豊岡、西が集団から遅れる。集団からレースリーダーを含む3名の選手が飛び出し逃げる。追走するメイン集団は20名前後。片山と森田が入っているが、西と豊岡は後続集団に取り残される。

平坦に入り逃げていた3名の選手が追走集団に吸収されペースが落ちたところに、後続集団の15名前後の選手が追い付きメイン集団が40名前後になる。再び集団からアタックする選手が出る中、森田と片山も積極的に動くが、集団から飛び出す事が出来ないまま、ラスト30kmで4名の選手が集団から抜け出す。

1分前後で逃げていた3名の選手だったが、ラスト500mゴール手前を右に曲がった所で惜しくも集団に吸収され、大集団のゴール勝負となった。

激戦のゴール勝負を制したのはEvans Shelleyで、3勝目をあげた。

最終コーナーを曲がるときに5番手にいた森田は、マークした選手を追走しきれず7位、片山30位。第3グループでゴールした豊岡59位、西65位に終わる。

2月28日 第6ステージ

Wellington クリテリウム

10分経過ごとにスプリントポイントがあり、最初から最後までペースが落ちることなく、レースリーダーのいるUSAナショナルと逆転勝利を狙って

いるオーストラリアナショナルが中心となり集団のペースを上げる。

スタート5分で集団が大きく2つに分かれる。トップ集団は25名、追走グループもバラバラとなり、西は10分で、片山は15分でタイムアウト。森田と豊岡がトップグループで快走。20分経過、スプリント前に森田が単独アタック、積極的なレース展開で上位を狙う。

ラスト15分、快調に走っていた豊岡が前走者の幅寄せで集団から遅れてしまい惜しくも+3周で集団に抜かれリタイア。

ゴール勝負となった23名のゴール勝負はわずかに抜け出したエバンスが1位。通算4勝目で総合優勝を果たした。8位でゴールした森田は、全ステージトップ集団でゴールするも、スプリント力が無いためUCIポイント獲得圏内の表彰台に上がることが出来ずに終わった。

<まとめ>

2月4日から1週間の沖縄合宿で強化を図り、今年初のUCIカテゴリー2-2女子ステージレース(ニュージーランド遠征)に参加。

レース前日の現地入りで、移動疲れからか上野が熱を出しレース参加を断念。またチームのエースとして日本の女子自転車界をリードしなければならない萩原が、初日全く危なげない直線コースで前走者の転倒に巻き込まれ落車。怪我は浅かったが胸を打撲、深い呼吸をすると痛みがあるため2日目のレースを棄権したいと申し出てきたが、私の経験から走れると判断してレースを続けさせた。

痛みを堪えて走った2日目のレースは、思い切ったレース展開で集団から積極的に飛び出し4名の選手で逃げるが、逃げ切り目前にして下りコーナーで前走者の転倒に巻き込まれ落車、2日連続の落車でダメージも大きく萩原はリタイア。

片山、森田は確実にトップグループでゴールするがスプリント力がなく、今一步及ばず残念なレース展開であった。豊岡は平たんコースでは戦えるものの、登坂力の無さと体重が重く集団から遅れてしまい、ステージレースでは戦えない。西は体調の起伏が激しく、全く走れない状態であった。

春先のレースは実力差が少なくUCIポイントを獲得するための大きなチャンスでもあったが、走る前から体調を崩す選手が出るなど、基本的な体力

の無さと経験不足、精神面での弱さが浮き彫りにした遠征になった。

(強化コーチ 高橋 松吉)

【競技結果】

ウイメンズ・ツアー・オブ・ニュージーランド (UCI WE 2.2)
(2010/2/24-28 ニュージーランド・ウイメンズ)

個人総合成績

1	Shelley OLDS	USA	12:33:00
2	Amber NEBEN	USA	+0:16
3	Tiffany CROMWELL	AUS	+0:45
15	森田 正美	神奈川 BSアンカー	+2:41

第1ステージ (95km)

1	Shelley OLDS	USA	2:49:29
2	Ruth CORSET	AUS	+0:00
3	Cherise TAYLOR	RSA	+0:00
10	片山 梨絵	神奈川 Specialized	+0:00
13	森田 正美	神奈川 BSアンカー	+0:00
64	豊岡 英子	大阪 パナソニックL.	+12:59
74	西 加南子	千葉 Luminaria	+14:21
79	萩原麻由子	大阪 CB あさひ	+17:42
	上野みなみ	青森 八戸工業高校	DNF

第2ステージ (114 km)

1	Shelley OLDS	USA	3:13:08
2	Xin LIU	GPC	+0:00
3	Wan Yiu Jamie WONG	GPC	+0:00
8	森田 正美	神奈川 BSアンカー	+0:00
15	片山 梨絵	神奈川 Specialized	+0:00
44	西 加南子	千葉 Luminaria	+0:18
57	豊岡 英子	大阪 パナソニックL.	+3:38
	萩原麻由子	大阪 CB あさひ	DNF

第3ステージ (125 km)

1	Irene DIGENIS	AUS	2:21:39
2	Yvette HILL-WILLIS	NZL	+0:00
3	Gayle BROWNLEE	NZL	+0:00
20	豊岡 英子	大阪 パナソニックL.	+0:00
23	片山 梨絵	神奈川 Specialized	+0:00
38	森田 正美	神奈川 BSアンカー	+0:00
65	西 加南子	千葉 Luminaria	+0:00

第4ステージ (11 km)

1	Amber NEBEN	USA	17:11
2	Shelley OLDS	USA	+0:25
3	Tiffany CROMWELL	AUS	+0:29
29	片山 梨絵	神奈川 Specialized	+1:45
48	森田 正美	神奈川 BSアンカー	+2:25
59	豊岡 英子	大阪 パナソニックL.	+2:50
78	西 加南子	千葉 Luminaria	+4:08

第5ステージ (112 km)

1	Shelley OLDS	USA	2:48:20
2	Ruth CORSET	AUS	+0:00
3	Xin LIU	GPC	+0:00
7	森田 正美	神奈川 BSアンカー	+0:00
30	片山 梨絵	神奈川 Specialized	+0:00
59	豊岡 英子	大阪 パナソニックL.	+16:53
65	西 加南子	千葉 Luminaria	+16:53

第6ステージ (35 km)

1	Shelley OLDS	USA	1:03:19
2	Kirsty BROUN	AUS	+0:00
3	Joanne KIESANOWSKI	NZL	+0:00
8	森田 正美	神奈川 BSアンカー	+0:00
	豊岡 英子	大阪 パナソニックL.	DSQ
	片山 梨絵	神奈川 Specialized	DSQ
	西 加南子	千葉 Luminaria	DSQ

平成 21 年度全国高等学校選抜自転車競技大会

岐南工業高校が学校対抗優勝



平成21年度全国高等学校選抜自転車競技大会が3月24日から27日の4日間、今回で4回目の開催を迎える北九州メディアドームと北九州市若松区竹並バイパス特設ステージにおいて行われた。初日から雨天ではあったが、ドームという快適な環境の中で開催された大会となった。

初日、開会式後に行われた女子2km個人追抜予選、男子3km個人追抜予選の結果を受けて、翌日に順位決定戦が行われた。2km個人追抜は1年の中村友香(奈良北)が2分44秒420で優勝、2位は岩田知夏(北桑田)、3位は中村妃智(千葉経大附)となった。3km個人追抜は昨年度選抜大会、高校総体の同種目タイトルホルダーの矢野智哉(岐南工)が3分37秒262で2連覇を果たした。2位は高校総体同種目3位の黒瀬耕平(岡山工)、3位は近谷涼(氷見)となった。

ポイントレースは新潟国体3位入賞の山本隼(甲府工)が中盤に形成された逃げ集団の中で確実に1着を重ねて、追い迫る昨年度選抜・高校総体ともに準優勝の我妻優弥(学法石川)を振り切り、20点で優勝した。3位は中井俊亮(榛生昇陽)、高校総体優勝の徳田鍛造(北桑田)は最終ポイントなどをとり、4位入賞となった。

女子500mタイム・トライアルは丸田京(共立二)が40秒108で優勝。2位は樋口晴香(白河実)、3位は合田祐美子(朝日塾)となった。

男子1kmタイム・トライアルは戸田康平(石田)が1分08秒309で優勝。2位は大西貴晃(日出暘谷)、3位は沼田明久(甲府工)となった。

男子スクラッチ決勝は、集団でのゴールスプリントとなりそうな気配で牽制が続く中、最終周回に飛び出した吉田成吾(岐南工)がそのままゴールし優勝した。2位は緑川竣一(学法石川)、3位は長瀬幸治(栄北)が入った。

女子スクラッチ決勝は、中盤に岩田知夏(北桑田)と神田紗希(鹿児島実)が飛び出し、そのままレースは展開。終盤でペースをあげて神田を振り切っていた岩田が優勝した。3位は中村妃智(千葉経大附)となった。

ケイリン決勝はその進出者の半数4



名が1年となったが、その一人谷口遼平(朝明)が優勝を果たした。2位には同じく1年の小酒大勇(平工)、3位には木村幸希(市立広島工)が入った。

スプリント決勝では予選1位上がりから順当に勝ち上がってきた坂本将太郎(作新学院)と1回戦で坂本に負けを喫したが、敗者復活戦から勝ち上がってきた小川真太郎(小松島西)の再戦となった。1回戦は小川が取ったが、2・3回戦を制した坂本が優勝を飾った。

大会最終日は個人ロードレースが北九州市若松区竹並バイパス特設ステージにおいて開催された。北九州での過去3年の選抜大会はすべて雨天の中の開催となったが、今年は厳しい寒さの中ではあったが、晴天に恵まれる好条件でのレースとなった。スタート地点から地元中学生によるパレードスタートで周回コース(7km)へ移動し、男子は75km、女子は40kmで行われた。

男子は、残り2周付近でスクラッチ3位入賞の長瀬幸治(栄北)と高士拓也(朝明)が集団から飛び出し、長瀬がゴールスプリントを制した。その後は集団によるゴールスプリントとなり、鍵本大地(崇徳)が3位に入った。

女子は、8名のゴールスプリントに持ち込まれた結果、岩出愛未(瀬戸北)が優勝。2位には樋口晴香(白河実)、3位には下久保初菜(北桑田)が入った。

学校対抗総合成績は2種目の種目



男子ロードレース

優勝を果たして18点を獲得した岐阜県立岐南工業高等学校(萩野良信監督)が総合優勝を飾った。(高木 信行)

【競技結果】

平成21年度全国高等学校選抜自転車競技大会(2010/3/24-27 福岡・北九州)

男子スプリント

1	坂本将太郎	栃木 作新学院	11.398
2	小川真太郎	徳島 小松島西	11.882
3	八木澤一喜	青森 青森山田	11.790
4	大野 鷹也	千葉 千葉経大附	11.714
5	田中 諤士	静岡 修善寺工	11.689
6	波平 敏弥	沖縄 北中城	11.876

男子1kmタイムトライアル

1	戸田 康平	香川 石田	1:08.309
2	大西 貴晃	大分 日出暘谷	1:09.433
3	沼田 明久	山梨 甲府工	1:09.754
4	井上 椋平	大分 別府商	1:10.364
5	伊藤 邦和	東京 昭和一学	1:10.369
6	安里 優太	沖縄 北中城	1:10.423

男子3km個人追抜競走

1	矢野 智哉	岐阜 岐南工	3:37.262
2	黒瀬 耕平	岡山 岡山工	3:40.457
3	近谷 涼	富山 氷見	3:40.209
4	高宮 佑介	宮城 東北	3:42.553
5	菊地 啓汰	岩手 水沢農	3:45.327
6	早川 雄貴	兵庫 日生第三	3:45.664

男子ケイリン

1	谷口 遼平	三重 朝明	11.811
2	小酒 大勇	福島 平工	
3	木村 幸希	広島 市立広島工	
4	谷口雄太郎	東京 昭和一学園	
5	中藤 諒典	岡山 水島工	
6	吉川 嘉斗	徳島 小松島西	

男子スクラッチ(8km)

1	吉田 成吾	岐阜 岐南工	12:14.76
2	緑川 竣一	福島 学法石川	
3	長瀬 幸治	埼玉 栄北	
4	藤森 貴之	熊本 九州学院	
5	高橋 大輝	秋田 大曲農	
6	野久保良一	大阪 大産大附	

男子ポイントレース(24km)

1	山本 隼	山梨 甲府工	20p
2	我妻 優弥	福島 学法石川	15p
3	中井 俊亮	奈良 榛生昇陽	13p
4	徳田 鍛造	京都 北桑田	9p
5	金子 将司	茨城 竜ヶ崎南	8p
6	中里 仁	埼玉 小松原	8p
7	古川 卓也	沖縄 美来工科	8p
8	那須 太郎	高知 高知工	7p

男子ロードレース(75km)

1	長瀬 幸治	埼玉 栄北	1:54:18
2	高士 拓也	三重 朝明	1:54:18
3	鍵本 大地	広島 崇徳	1:54:35
4	中井 俊亮	奈良 榛生昇陽	1:54:35
5	北村 彰也	和歌山 和歌山北	1:54:36

6	西川 尚吾	東京 昭和一学園	1:54:36
7	秋田 拓磨	福井 春江工	1:54:36
8	酒向 俊平	千葉 千葉学芸	1:54:36
9	谷口雄太郎	東京 昭和一学園	1:54:36
10	野内隆太郎	大分 日出場谷	1:54:37

女子 500m タイムトライアル

1	丸田 京	東京 共立二	40.108
2	樋口 晴香	福島 白河実	40.943
3	合田祐美子	岡山 朝日塾	41.001
4	藤根 美咲	岩手 紫波総合	41.477
5	中村 友香	奈良 奈良北	41.695
6	小城 千奈	福岡 祐誠	41.772

女子 2km 個人追抜競走

1	中村 友香	奈良 奈良北	2:44.420
2	岩田 知夏	京都 北桑田	2:46.665
3	中村 妃智	千葉 千葉経附	2:47.335
4	樋口 晴香	福島 白河実	2:49.771
5	神田 紗希	鹿児島 鹿児島実	2:50.848
6	神庭 睦実	鳥取 米子東	2:53.886

女子スクラッチ (6km)

1	岩田 知夏	京都 北桑田	
2	神田 紗希	鹿児島 鹿児島実	
3	中村 妃智	千葉 千葉経大附	
4	丸田 京	東京 共立二	
5	下久保初菜	京都 北桑田	
6	藤根 美咲	岩手 紫波総合	

女子個人ロードレース (40km)

1	岩出 愛未	愛知 瀬戸北	1:15:58
2	樋口 晴香	福島 白河実	1:15:58
3	下久保初菜	京都 北桑田	1:15:58
4	岩田 知夏	京都 北桑田	1:15:58
5	青木志都加	京都 北桑田	1:15:58
6	神田 紗希	鹿児島 鹿児島実	1:15:58
7	神庭 睦実	鳥取 米子東	1:15:58
8	中村 妃智	千葉 千葉経大附	1:15:58
9	中村 友香	奈良 奈良北	1:15:58
10	丸田 京	東京 共立二	1:15:58

学校対抗総合成績

1	岐南工業高校	岐 阜	18p
2	朝明高校	三 重	16p
3	甲府工業高校	山 梨	15p
3	栄北高校	埼 玉	15p

Youth Olympic Games 合宿

2010年3月20～22日、Continental Cycling Center 修善寺にて2010 Youth Olympic Games (以下YOG) に参加予定選手の合宿が行われた。合宿にはBMXとMTBの代表候補選手が集まり、初の合同練習をおこなった。



YOGの自転車競技では、男子3名+女子1名が1チームとなって国別対抗戦で競われる。つまり、個人ではなく各国代表チームに対してメダルが授与される。男子はロード(個人TT)・BMX・MTB(XC)をそれぞれ専門とする選手が1名ずつだが、専門種目に加えて個人ロードレースにも出場しなくてはならない。一方で女子は、ロード(個人TT)・BMX・MTB(XC)を1人ですべて出場しなくてはならない。そのため合宿では専門外種目も練習し、さらに基礎トレーニングも課されるという内容の濃いものであった。

また、今回の合宿ではお互いの専門種目を理解し、選手同士の意思疎通を促すという狙いもあったが、練習中にお互いの得意分野を教えあう光景が頻繁に見られ、その目的も十分に達成できたように感じる。

まとめとして、今回のような競技種目の垣根を越えた合宿は複合トレーニングとしての効果もさることながら、「自転車競技・日本代表チーム」という一体感を生み、チーム全体の士気高揚にも貢献すると考えられるため、今後も積極的に推進していくべきと思われる。

(MTB小委員会 西井 匠)

<参加メンバー>

選 手：長迫吉拓・渡辺 楓・山本 兆・岩出愛未

スタッフ：柿木孝之・宮城 力・西井 匠・高橋 博・菊池 貴

第1級公認審判員講習会の結果について

平成21年度トラック・ロード第1級公認審判員講習会として、実習ならびに講習を開催し検定の結果、下記の者を競技運営委員会において合格と判定した。

福島 剛(北海道)、外崎 修(北海道)
中野崎敏幸(岩手)、吉清水一之(岩手)
猿舘 貢(岩手)、中山 芳郎(埼玉)
堀米 弘孝(長野)、松村 正之(静岡)
中野 公雄(兵庫)、類家 信雄(和歌山)

JCF 推奨ヘルメット(新制度)についてお知らせ

JCFは1983年より自転車競技の安全と特性を考慮し「公認ヘルメット」制度を推進してきましたが、このたび新たに自転車スポーツの安全な普及振興を図るため、「推奨ヘルメット(緑色シール)」の制度を設けましたのでお知らせします。

ただし、この「推奨ヘルメット」はレースでは使用できませんのでご注意ください。

伊藤超短波の製品が
日本を代表する選手たちを支えています。

最高のコンディションを保ち、ケガからはより早く回復すること。
医療の分野だけではなく、様々なスポーツの現場で、選手のサポートに
伊藤超短波の治療器が活躍しています。



AT-mini

AT ミニ ポータブル 低周波治療器

低周波治療器
管理医療機器(特定保守管理医療機器)
医療機器認証番号 220AABZX00344A01

※本医療機器は専門家の指導のもとにご使用ください

50g

超軽量

12時間

連続使用

3 COMB/PAIN/CARE

3つの治療モード

鎮痛・治療

- COMB (鎮痛+治療) ALLタイムケア：トレーニングを終えた全てのアスリートに効果的。
- PAIN (鎮痛) ONタイムケア：トレーニング中など、現場で起こった急なアクシデントに。
- CARE (治療) OFFタイムケア：移動中や休憩中などの体を休めている時に。

製造販売元



伊藤超短波株式会社

東京都練馬区豊玉南3-3-3

www.itolator.co.jp

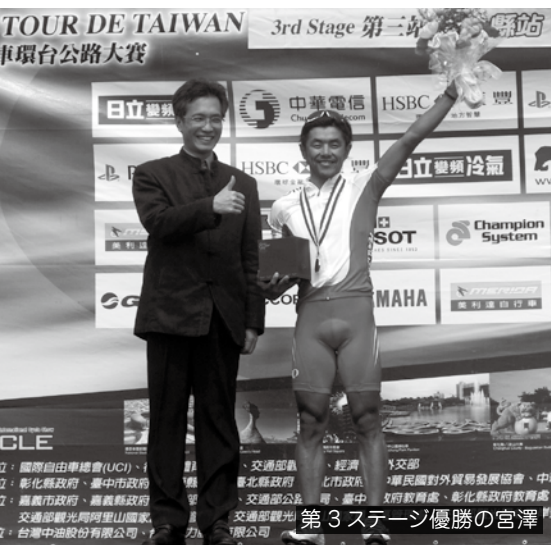
メディカル事業部

本 社：〒113-0001 東京都文京区白山1-23-15

TEL. 03(3812)1216(代)・FAX. 03(3814)4587

2010 ツール・ド・台湾

宮澤がステージ2勝!!



海外からの9カ国を含め20チーム100名が参加。高雄を出発し西側を北上し、台北まで総走行距離878.84km、7日間7ステージで行われる。日本からはナショナルチームを始め、シマノ、愛三工業、BSの4チームが参加。

3月14日 第1ステージ

ホテルから7分ほど走ったスタジアムがスタート地点となり、13時スタート、気温の上昇が選手を苦しめた。

追い風に乗れ、パレードもすぐに40kmペースとなり、正式スタート時には50kmの速いレース展開となった。

集団から飛び出すアタックがなかなか決まらない中、47km地点で早川が前輪パンク。直ぐに交換して走るが思うようにサポートカーの流れに乗れず、なかなか集団に復帰できない。

65km地点で宮澤が前後輪共にパンク。直ぐに交換して走り、間もなく集団に復帰。遅れていた早川もメイン集団に復帰する。

集団のレース展開が激しく動中、68km地点で内間を含む15名前後の選手が、トップ集団を形成し逃げるレース展開になる。

タイム差を1分とするが思うようにペースが上がらず、110km地点で追走してきたメイン集団に吸収されると同時にスプリントポイントがあり、ペースが上がった瞬間、宮澤を含む6名の選手が集団から抜け出す。ラスト10km前後でアタックがあり逃げていたトップ集団が崩れ、McCANN David(IRL)が単独でアタック。2名の選手が続きさらにその後方に宮澤を含む3名の選手という展開になるが、

ラスト2kmで宮澤が力尽き遅れてしまい、残念ながら6位でゴール。

優勝はMcCANN。内間は途中で逃げのレース展開を作るが、脱水状態となりトップから3分17秒遅れで37位。

3月15日 第2ステージ

昨日より暑い中95名がスタート。昨日から調子の悪い無線がついにダメになり、前半のレース状況が全く分からなかったが、パネルの情報で野中を含む、福島(Geumsan)、飯野(シマノ)、Fitr (Polygon)の4名が集団から抜け出し逃げていることがわかる。

無線の状態が悪いのでトラブルが無いことを祈りながら走っていると、40km付近で無線の状態が良くなりレース状況の把握が出来た。早速逃げていたトップグループまで上がり、野中に補給を渡すことが出来た。

直ぐにメイン集団に戻り後続選手のサポートに回る。逃げていた選手全員がリーダーのMcCANNから遅れること5分以上あることから、1分前後のタイム差で集団がコントロールされている。

ラスト30kmの周回コースに入ると集団のペースも上がり、徐々にタイム差を詰められラスト10kmで集団に吸収される。惜しくも逃げ切れることは出来なかったが、100kmも逃げた野中は集団から遅れ92位でゴール。積極的なレース展開であった。今後に大きな経験となることは間違いなく、若手選手には常に挑戦の気持ちを持って走ってほしい。

大集団のゴール勝負は清水都貴(BS)が優勝、同タイムで宮澤が5位。

3月16日 第3ステージ

昨日までの猛暑から一転10度以上も気温が下がり、強風が吹き荒れる天気となり、厳しいレース展開が予想された。

市内を2周パレード走行後に正式スタート。5kmほど走ってから緩い上り坂に入りKOMを通過。下りきった所で3名の選手がアタックし、集団から抜け出す。直後に集団から単独アタックで越海が追走するが、トップの3選手には追いつかず集団に吸収される。

その後集団のペースは上がらず、66km地点では最大5分25秒差まで広がり、個人総合1位のジャイアントアジアが集団のペースを上げると思うようにタイム差は詰まらない。

90km過ぎから総合優勝を狙う他

チームの選手も先頭交替に加わり集団のペースを上げる。徐々に詰まっていたタイム差が、123.25km地点のスプリントポイント通過後に一気に詰まり50秒差となる。一時は逃げ切られると思ったが、ラスト3km過ぎに逃げていた3名が集団に吸収され、そのまま大集団の上り坂ゴール勝負となった。

激戦を制したのは、2年前の同じ場所でも2着に甘んじた宮澤。前回の教訓を生かして満身の力を込めてのスプリント。6番手からの追い込みで見事に優勝。

前日の総合50秒遅れから32秒と20秒近く総合時間を詰め、今後のステージで総合優勝を目標にレースを展開していく。

3月7日 第4ステージ

パレード走行9km後スタート。1周8.46kmを16周する平坦コースで行われた。

スタートから45km/hペースの速いレース展開でアタックの掛け合いの中、64km地点で内間、野中、SUHARDI Hassanの3選手が集団から抜け出す。内間、SUHARDIは快調に走るが、野中は苦しみながら必死に食らいつきローテーションに入る。

2回目のスプリントポイント76.6km地点で1分58秒差と、大きく集団を引き離し逃げ切りのレース展開となる。一緒に逃げていたSUHARDIが、宮澤とのタイム差1分13秒のため大きな差をつけることは総合で不利になることから、タイム差を見ながらステージ優勝を指示する。

ラスト1周半、各チームの思惑もあり集団のペースが一気に上がりタイム差50秒。ラスト7kmで内間が単独アタックを指示する。ラスト6kmで内間がアタック。SUHARDI、野中を引き離し独走態勢になり逃げる。集団のペースが加速する中、内間はステージ優勝を目指し必死に逃げるも、ラスト500m惜しくも集団に吸収されてしまう。

大集団のゴール勝負から混戦を抜け出したのは、爆発的なスプリント力で2連勝を飾った宮澤。チームメイトの逃げを無駄にしないエースの走りを見せてくれた。同時にポイント賞とアジアリーダになる。

<宮澤コメント>

今日はアタックが続く難しい展開の中、野中、内間が逃げを決めてくれて最高の展開になった。集団内でも日本チームの

走りが認められ、位置取りもスムーズにできることが今日の優勝に結び付いたと思う。あす以降、総合を視野に走る。

3月17日 第5ステージ

今日のコースは山岳ポイントが3ヶ所、その内2ヶ所がカテゴリー1の厳しいコースであった。

昨日同様スタートから逃げのレース展開となりアタックが続く。7.43km最初の山岳ポイントを過ぎてアップダウンが続いていた12km地点、下り坂Vコーナーを左に曲がったところで、宮澤が落車に巻き込まれ転倒。曲がったハンドルを修正し走りだす。内間、野中がアシストに回り集団に復帰するが、その後も前輪を交換するなどトラブルが続き体力を消耗してしまう。

59km地点で野中のRメカワイヤーが切れたため、スペア自転車に乗り換える。その後レバー本体を交換、ワイヤーを入れ替え変速調整して、元の自転車に再度乗り換える。しかし95km地点で集団から遅れてしまう。

113.73kmの山岳ポイントでは越海が集団から遅れる。内間、早川も頂上付近で遅れるが下りで集団に復帰。

集団から抜け出した、GAIMON Philip (香港)、CHOI Ki Ho (ケンダ)と徐々にタイム差が開き、140km地点で1分22秒差になった。逃げているCHOIが総合2位のため、総合上位を狙うチームが集団のペースを上げて2選手を追う。日本チームも内間と早川が先頭のローテーションに入って、宮澤のアシストをする。

ラスト4kmで2名を集団が吸収し、今日も大集団のゴール勝負となった。宮澤またしてもチャンス、3連勝なるかと思われたが写真判定の結果2着でゴール。惜しくも優勝は出来なかったが、着実に総合優勝に近付いている。

3月19日 第6ステージ

ロードレース最終ステージ。パレード走行15km終了後、各チーム総合優勝を狙い積極的なレース展開で攻撃を仕掛ける。

8km地点で10名の選手が逃げ、

1回目の山岳ポイント通過後トップグループは6名となり、集団を引き離す。最大2分50秒までタイム差をつけるが、後続の追い上げもあり、2回目の山岳ポイントでトップ集団から1名の選手が飛び出し逃げるも、平坦に入り集団に吸収される。

ラスト20km集団からアタックが続く中、ラスト13kmで清水都貴とTomasz Kienbys (CCC)の二人が集団から抜け出し勝負に出る。20秒差まで開いたがラスト3kmで集団に吸収され、今日も大集団ゴール勝負になった。

宮澤の3勝目を願ったが、ゴール前の距離標識が間違っていたため、スプリントの仕掛けどころを失敗し4着に終わった。

3月20日 第7ステージ

最終日は1周1kmのコースを60周するクリテリウムで行われた。

84名がスタート、個人総合1位のジャイアントチームがレースをコントロールする中、アタックの応酬でハイペースの中5周終了。4名の選手が集団から抜け出し逃げるが10周終了で集団に吸収される。

18周終了後、早川を含む11名の選手が集団から抜け出しメイン集団とのタイム差を25秒とする。

宮澤が総合優勝を狙うにはスプリントポイントでタイム差を詰めないと可能性なくなるため、チーム一丸となって集団をコントロールするが、タイム差が思うように詰まらず、宮澤自力発進でアタック。11名の逃げは集団に吸収されるが、再び早川を含む10名の逃げが決まる。

序盤から追い上げに回るレース展開になってしまい、チャンスを作れず最終周回集団を吸収できずゴール。

(監督 高橋 松吉)

【競技結果】

2010ツール・台湾 (UCIアジアツアー-2.2)
(2010/3/14-20 台北-スタバイ)

個人総合成績

1	MCCANN David	GIANT	20:51:56
2	GAIMON Philip	KENDA	20:52:04
3	CLARKE William	GWA	20:52:07
4	宮澤 崇史	長野 NIPPO	20:52:10
27	内間 康平	沖縄 鹿屋体育大	20:56:45
34	早川 朋宏	愛知 法政大学	20:59:08
54	越海 誠一	大分 日本大学	21:08:49
81	野中 竜馬	広島 鹿屋体育大	21:41:33

ポイント賞

1	宮澤 崇史	長野 NIPPO	62p
---	-------	----------	-----

ベストアジア賞

1	宮澤 崇史	長野 NIPPO	20:52:10
---	-------	----------	----------

団体総合成績

1	Hong Kong Team	62:39:45
2	Shimano Racing Team	62:41:21

3	ACTION Cycling Team	62:43:13
6	日本ナショナルチーム	62:47:09
8	AISAN Racing Team	62:49:50
11	Team Bridgestone Anchor	62:54:03

第1ステージ (134 km)

1	MCCANN David	GIANT	3:11:40
2	CLARKE William	GWA	3:11:47
3	GAIMON Philip	KENDA	3:11:47
6	宮澤 崇史	長野 NIPPO	3:12:20
37	内間 康平	沖縄 鹿屋体育大	3:14:57
52	越海 誠一	大分 日本大学	3:18:11
68	早川 朋宏	愛知 法政大学	3:18:11
74	野中 竜馬	広島 鹿屋体育大	3:18:11

第2ステージ (137 km)

1	清水 都貴	BS Anchor	3:22:00
2	WONG Kam Po	HKG	3:22:00
3	TOMASZ Smolen	CCC	3:22:00
5	宮澤 崇史	長野 NIPPO	3:22:00
41	内間 康平	沖縄 鹿屋体育大	3:22:00
68	越海 誠一	大分 日本大学	3:22:00
80	早川 朋宏	愛知 法政大学	3:22:24
92	野中 竜馬	広島 鹿屋体育大	3:29:07

第3ステージ (136 km)

1	宮澤 崇史	長野 NIPPO	3:13:28
2	鈴木 真理	Shimano	3:13:28
3	DOWNING Dean	RCS	3:13:28
14	内間 康平	沖縄 鹿屋体育大	3:13:36
33	野中 竜馬	広島 鹿屋体育大	3:13:48
49	早川 朋宏	愛知 法政大学	3:13:54
76	越海 誠一	大分 日本大学	3:14:45

第4ステージ (124 km)

1	宮澤 崇史	長野 NIPPO	2:43:22
2	BARTLOMIEJ Matusiak	CCC	2:43:22
3	清水 都貴	BS Anchor	2:43:22
31	早川 朋宏	愛知 法政大学	2:43:22
73	越海 誠一	大分 日本大学	2:43:22
86	内間 康平	沖縄 鹿屋体育大	2:44:17
88	野中 竜馬	広島 鹿屋体育大	2:44:51

第5ステージ (157 km)

1	DOWNING Dean	RCS	3:49:34
2	宮澤 崇史	長野 NIPPO	3:49:34
3	鈴木 真理	Shimano	3:49:34
33	早川 朋宏	愛知 法政大学	3:49:34
40	内間 康平	沖縄 鹿屋体育大	3:50:04
63	越海 誠一	大分 日本大学	3:58:37
85	野中 竜馬	広島 鹿屋体育大	4:08:35

第6ステージ (132 km)

1	TOMASZ Smolen	CCC	3:10:17
2	DOWNING Dean	RCS	3:10:17
3	綾部 勇成	AISAN	3:10:17
4	宮澤 崇史	長野 NIPPO	3:10:17
39	早川 朋宏	愛知 法政大学	3:10:17
51	内間 康平	沖縄 鹿屋体育大	3:10:17
58	越海 誠一	大分 日本大学	3:10:17
68	野中 竜馬	広島 鹿屋体育大	3:25:30

第7ステージ (63 km)

1	ZAINAL Rizuan	Zainal MAS	1:21:26
2	福島 晋一	GGA	1:21:26
3	WINDSOR Dean	RCS	1:21:26
9	早川 朋宏	愛知 法政大学	1:21:26
19	宮澤 崇史	長野 NIPPO	1:21:37
72	内間 康平	沖縄 鹿屋体育大	1:21:37
74	越海 誠一	大分 日本大学	1:21:37
78	野中 竜馬	広島 鹿屋体育大	1:21:37



アジア選手権選考合宿並びに女子強化合宿

開催日時 平成22年2月4日(木)～10日(水)

開催場所 沖縄県名護市周辺道路

参加選手 森本 朱美、西 加南子、森田 正美、片山 梨絵、
智野 真央、豊岡 英子、牧瀬 翼、萩原麻由子、
和田見里美、上野みなみ

2月5日

ホテルから奥間までアップ、片道5km折り返しコース
10kmのタイムトライアルを実施、天候は雨と変則的に吹く
風に選手のペースも乱れる。

2月6日

100km地点までは集団走行で走り、以降は1列のローテー
ションに切り替えて個人の实力を見る。(160.4km)

2月7日

今日も朝から強風曇り雨だが予定通りスタート。昨日のペ
ースが遅すぎたため回転を上げローテーションを早くしてペ
ースを一定にする。70km地点でトイレ休憩と補給を入れ再スタート、昨日同様
1列のローテーションは80km地点からスタート。(160.4km)

2月8日

今日は朝から24℃とかなり暑い気候の中スタート。風は相
変わらず強いが晴れているせいか休息地点の辺戸岬を過ぎた
70km地点まで20分も早く到達。再スタート後80km地点から1列で先頭交代でペースを上げ
る。(160.4km)

2月9日

合宿最終日、やっと沖縄らしい天候に恵まれ、2回目の
10km個人タイムトライアルを行った。弱風のためタイムは初日より良いが、前日までのトレーニ
ング疲れもあり期待するほどのタイムは出なかった。

トレーニング終了後、個人面談。

2月10日

朝食後、残りの選手の面談、その他の選手はリカバリートレ
ーニング1～2時間。11時にホテルを出発、空港で解散して
無事強化合宿並びにアジア選手権選考合宿を終了した。

(強化コーチ 高橋松吉)

●2010年版JCF競技規則集●

(財)日本自転車競技連盟2010年版の競技規則集
が発行されました。ご購入希望のお問合せは、各加
盟団体へお問合せください。

第30回アジア自転車競技選手権大会
第17回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会
日本代表選手団

大会名 第30回アジア自転車競技選手権大会

第17回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会

開催場所 アラブ首長国連邦(UAE)・シャルジャ

大会期間 2010年4月9日～17日

派遣期間 2010年4月5日～20日

代表選手団

監督 班目 秀雄(JCFナショナルコーチ)

選手

エリート

成田 和也(JPCA・福島) T

渡邊 一成(JPCA・福島) T

新田 祐大(JPCA・福島) T

盛 一大(愛知・愛三工業レーシングチーム) T

高橋 翔太(岐阜・日本大学) T

窪木 一茂(福島・日本大学) T

佐々木 龍(神奈川・早稲田大学) T

元砂 勇雪(奈良・鹿屋体育大学) T

石井 寛子(茨城・スーパーKアスリートラボ) T

前田佳代乃(鹿児島・鹿屋体育大学) T

和田見里美(鳥取・中京大学) T

鈴木 真理(JPAC・シマノレーシング) R

宮澤 崇史(長野・TEAM-NIPPO) R

西谷 泰治(愛知・愛三工業レーシングチーム) R

清水 都貴(埼玉・プリヂストン・アンカー) R

豊岡 英子(大阪・パナソニックレディーズ) R

萩原麻由子(大阪・サイクルベースあさひ) T&R

牧瀬 翼(佐賀・MUUR ZERO) R

上野みなみ(青森・鹿屋体育大学) T&R

ジュニア

伊藤 裕貴(三重・競輪学校) T

木村 弘(青森・競輪学校) T

坂本将太郎(栃木・作新学院高校) T

矢野 智哉(岐阜・岐南工業高校) T

一丸 尚伍(大分・法政大学) T&R

黒枝 士揮(大分・鹿屋体育大学) T&R

六峰 亘(大分) R

長瀬 幸治(埼玉・栄北高校) R

※ T:トラックレース、R:ロードレース

日本航空

Dream Skyward. JAL

世界の空でお会いしましょう。



www.jal.co.jp

競技大会 結果

大会名、チーム名等については略して記載

2009 UCI サイクルワールドカップファイナル (2010/3/13 ドイツ・ケムニッツ)

- 1 Dominik Planzer / Roman Schneider
RMV Altdorf/SUI
- 2 Rico Rademann / Tino Kepsch
SV Ehrenberg/GER
- 3 Simon König / Dietmar Schneider
RC Höchst 1/AUT
- 10 Katsuya Tanaka / Tomoaki Misu
Osaka University/JPN

第15回西日本チャンピオンサイクリロードレース (2010/3/14 広島・中央森林公園)

A-E (61.5km)

- 1 畑中 勇介 東京 シノ 1:33:43.64
- 2 松村 光浩 愛知 愛三工業 1:34:08.34
- 3 相川 将 埼玉 BSアンカー 1:34:15.75
- 4 白石 真悟 山口 シバノキ 1:34:40.29
- 5 Lee Rodgers 佐賀 Fuji 1:34:49.13
- 6 鈴木 謙一 愛知 愛三工業 1:34:57.55
- 7 平塚 吉光 静岡 シノ 1:35:04.85
- 8 日置 大介 兵庫 MASSA 1:35:05.13
- 9 伊藤 翔吾 広島 MASSA 1:35:05.48
- 10 伊勢 直人 大阪 MASSA 1:35:06.41

A-M (36.9km)

- 1 中村 誠 岡山 チム岡山 1:01:33.27
- 2 中西一太郎 岡山 チム岡山 1:01:33.60
- 3 猪又 靖 大阪 シムスト 1:01:33.61
- 4 寺本 道彦 島根 アアラ 1:01:33.80
- 5 佐藤 信哉 福岡 Parabola 1:01:33.81
- 6 酒居 良和 広島 チムケンス 1:01:34.10
- 7 大村 英哉 熊本 PURPLE 1:01:34.80
- 8 田中 修一 兵庫 NasuFan 1:01:34.91
- 9 安東 秀倫 岡山 チム岡山 1:01:35.49
- 10 堀 浩之 石川 ハルバ 1:01:36.44

A-U (36.9km)

- 1 吉浦 満 京都 京都大学 58:39.97
- 2 長森 浩平 京都 京都大学 58:40.23
- 3 黒枝 士揮 大分 59:28.90
- 4 平井 栄一 神奈川 BSIワールド 59:29.88
- 5 眞田 義明 埼玉 BSIワールド 59:30.42
- 6 高宮 正嗣 鹿児島 鹿屋体育大 59:30.45
- 7 佐々木貴之 鹿児島 セントウインド 59:31.02
- 8 新居広一郎 香川 ナガワ.AS 59:31.63
- 9 丸本 悠太 広島 MASSA 59:31.67
- 10 畑段 嵐士 京都 同志社大 1:00:28.09

A-F (24.6km)

- 1 福本 千佳 大阪 ReadyGoJ. 45:22.60
- 2 木村 亜美 鹿児島 鹿屋体大 45:22.74
- 3 星川恵利奈 香川 Comrade 45:24.14
- 4 上野みなみ 青森 八戸工高 45:24.47

- 5 北野 寿枝 広島 bicinoko 45:37.26
- 6 岩田 知夏 京都 北桑田高 46:18.25
- 7 下久保初菜 京都 北桑田高 47:02.88
- 8 三宅 玲奈 岡山 荘内中学 48:12.42
- 9 大澤 真子 島根 イッパ U 48:21.61
- 10 藤井 絵理 広島 bicinoko 48:21.67

A-J (36.9km)

- 1 六峰 亘 大分 日出暁谷 58:22.30
- 2 中井 俊亮 奈良 榛生昇陽 58:22.31
- 3 大野 宏樹 広島 広島城北 58:23.00
- 4 池部 壮太 大分 別府商高 58:23.62
- 5 野内隆太郎 大分 日出暁谷 58:23.77
- 6 鍵本 大地 広島 崇徳高校 58:24.20
- 7 清水 太己 東京 BSIワールド 58:24.39
- 8 前園 浩平 愛媛 立命館大 58:24.46
- 9 横谷 直人 大分 日出暁谷 58:24.98
- 10 河賀 雄大 広島 広島城北 58:25.27

—全国地域別競技大会—

平成21年度九州地域自転車競技大会 (2009/2/11-14 沖縄・総合運動公園 / うるま市州崎)

男子スプリント

- 1 新納 大輝 鹿児島 鹿屋体育大学
- 2 安里 優太 沖縄 北中城高校
- 3 瀬戸 晋作 長崎 鹿町工業高校
- 4 福沢 涼太 熊本 千原台高校
- 5 大久保隆矢 福岡 祐誠高校
- 6 松本 貴志 長崎 鹿町工業高校

男子1kmタイムトライアル

- 1 新納 大輝 鹿児島 鹿屋体育大 1:09.919
- 2 安里 優太 沖縄 北中城高校 1:11.930
- 3 内間 康平 沖縄 鹿屋体育大 1:12.022
- 4 後藤 國仁 大分 大分消防局 1:12.308
- 5 島袋 大地 沖縄 北中城高校 1:12.741
- 6 小林 郁弥 鹿児島 鹿屋体育大 1:12.972

男子ケリ

- 1 後藤 國仁 大分 大分消防局 12.433
- 2 波平 敏弥 沖縄 北中城高校
- 3 福沢 涼太 熊本 千原台高校
- 4 釘丸 亮太 大分 日出暁谷高校
- 5 大久保隆矢 福岡 祐誠高校
- 6 藤原 大 福岡 祐誠高校

男子4km速度競走

- 1 越海 誠一 大分 日本大学 5:00.140
- 2 高良 和郎 沖縄 北中城高 5:01.762
- 3 横田 潤 沖縄 美来工科高校
- 4 照屋 貴己 沖縄 美来工科高校
- 5 馬場 博之 福岡 祐誠高校
- 6 瀬戸 栄作 長崎 鹿町工業高校

男子スクラッチ

- 1 住吉 宏太 熊本 千原台高 10:34.470
- 2 吉本 昂 長崎 鹿町工業高校
- 3 島袋 大地 沖縄 北中城高校
- 4 馬場 博之 福岡 祐誠高校
- 5 渡邊 恭輔 大分 別府商業高校
- 6 野内隆太郎 大分 日出暁谷高校

男子ポイントレース(24km)

- 1 越海 誠一 大分 日本大学 76p
- 2 内間 康平 沖縄 鹿屋体育大学 71p
- 3 古川 卓也 沖縄 美来工科高校 33p
- 4 横田 潤 沖縄 美来工科高校 33p
- 5 住吉 宏太 熊本 千原台高校 31p

- 6 高良 和郎 沖縄 北中城高校 27p

男子チームスプリント

- 1 沖 縄 安里・波平・内間 1:08.830
- 2 長 崎 原田・瀬戸・白濱 1:10.029
- 3 鹿児島 入佐・切通・谷山 1:14.667
- 4 熊本 住吉・福沢・坂本 降格(1:10.792)

男子4km団体追抜競走

- 1 大分 後藤・野内・渡邊・越海 4:54.028
- 2 長崎 松本・吉本・瀬戸・中村 4:59.264
- 3 福岡 笠・馬場・藤原・大久保 5:00.400
- 4 沖縄 古川・横田・照屋・島袋 5:01.727

男子ロードレース

- 1 内間 康平 沖縄 鹿屋体育大 1:17:07
- 2 住吉 宏太 熊本 千原台高校 1:17:07
- 3 棚原 憲崇 沖縄 名桜大学 1:17:07
- 4 古川 卓也 沖縄 美来工科高 1:17:07
- 5 横田 潤 沖縄 美来工科高 1:17:07
- 6 馬場 博之 福岡 祐誠高校 1:17:08

女子500mタイムトライアル

- 1 小城 千奈 福岡 祐誠高校 41.724
- 2 森 沙耶香 大分 別府商業高 43.083
- 3 神田 紗希 鹿児島 鹿児島実業 43.509

女子スプリント

- 1 小城 千奈 福岡 祐誠高校
- 2 神田 紗希 鹿児島 鹿児島実業高校

女子2km個人追抜競走

- 1 神田 紗希 鹿児島 鹿児島実 2:55.281
- 2 森 沙耶香 大分 別府商業 2:58.511
- 3 小城 千奈 福岡 祐誠高校 3:04.281

女子ロードレース

- 1 神田 紗希 鹿児島 鹿児島実業高 28:41
- 2 前島 律子 沖縄 TEAM KIDS 29:09
- 3 森 沙耶香 大分 別府商業高校 29:23

JCF 専門委員会・新委員のお知らせ

総務委員長：成田 昇
強化委員長：藤本 清孝
強化委員：富原 忠夫

ツアー・オブ・タイランド 2010 日本代表選手団

大会名 ツアー・オブ・タイランド 2010
(UCI アジアツアー 2.2)

開催場所 タイ王国・ウボンラチャタニ

大会期間 2010年4月1日～6日

派遣期間 2010年3月29日～4月8日
代表選手団

監督 浅田 顕

(JCFロード競技部会員)

メカニック 高橋 優平

(JCFロード競技部会支援スタッフ)

マッサージ 森 典隆

(JCFロード競技部会支援スタッフ)

選手 小森 亮平 (広島・Vendee U)

内間 康平 (沖縄・鹿屋体育大)

越海 誠一 (大分・日本大学)

吉田 隼人 (奈良・鹿屋体育大)

笠原 恭輔 (埼玉・中央大学)

— JCF 維持会員のお願い —

本連盟は平成7年5月にプロ、アマ統合によりわが国における自転車競技界を代表する団体として発足して以来、自転車競技の普及・振興に係る諸事業を展開してまいりました。今後も自転車競技のさらなる発展を期し、国内大会の充実や国際大会の開催・派遣等活発な事業展開を図る所存であります。しかしながら、これらの事業活動には多額の経費を必要とするため、連盟事務局は経費節約に努める一方、自主財源の増額を図ることが必要となっております。

本連盟では、自主財源確保の一環として従来から維持会員制度に基づき会員各位のご支援を仰いで参りました。つきましては、平成22年度におきましても、出費ご多端の折誠に恐縮とは存じますが、何卒かかる実情をご理解いただき、自転車競技の健全な普及・振興のためご支援を賜りますようお願い申し上げます。

維持会費（平成22年度分）※詳しくはお手数ですが、JCF事務局総務部までお問い合わせください。TEL: 03-3582-3713

個人会員：年額 10,000 円を一口とし、一口以上。 団体会員：年額 50,000 円を一口とし、一口以上。

<平成21年団体会員>

アメアスポーツジャパン(株)、(株)ケイデザインカンパニー、シマダ記章(株)、(株)シマノ、住友信託銀行(株)、ダイナソア(株)、ダイワボウプロダクト(株)、(株)なるしまフレンド、(株)日刊スポーツ新聞社、(社)日本競輪選手会徳島支部、(財)日本サイクルスポーツセンター、NPO法人日本スポーツ振興会、日本プロフェッショナルサイクリスト協会、パナソニックサイクルテック(株)、(株)深谷産業、ブリヂストンサイクル(株)、(有)ブリッジエンタープライズ、(株)マトリックス、三井生命保険(株)、(有)メダリストプランニング

<平成21年個人会員>

青山 清勝、穴田 勝彦、伊熊 牧治、石原 正和、井関 康正、岩井正二郎、岩城 光英、江崎 乙澄、江原 敏郎、岡田 行雄、岡本 雄作、奥田 悦司、小口 謙三、小野 盛秀、音田 進、加藤 昭、鹿又 未可、亀田 博文、川手 一則、久家 修、久保 義春、熊沢 元隆、栗原 朗、古作 太一、小西浩一郎、小林 智昭、近藤 一夫、斉藤 邦夫、斉藤 正弥、坂井田米治、佐久間重光、佐久間信司、佐々木正人、佐藤 隆、主濱 春蔵、白井 滋、杉山 康彦、鈴木 明、鈴木 孝幸、高橋 正雄、高橋 裕二、竹沢 義忠、田中 元浩、近成 保、塚本 義夫、辻本 誠、富原 忠夫、中西 泰三、中村 賢二、成田 昇、萩原 重一、平野 禎、保坂 晴穂、星 進一、堀江洋一郎、班目 秀雄、松尾嘉之輔、松倉 信裕、松下 勝義、松田 隆司、松村 正之、村田 隆宣、森 清一、山崎 隆明、山田 義輝、大和 孝義、鷲田 紀夫、渡邊 淳

広報委員会から 広報誌「シクリスムエコー」定期購読のご案内

平成14年度より「シクリスムエコー」個別郵送ご希望の方には、郵送料の一部をご負担いただいております。平成21年度につきましても、ご負担をお願いすることになりました。皆様のご理解をお願い申し上げます。なお22年度の発行回数は12回を予定しております。また、勝手ながら年度途中での申し込みにつきましても、4月号からの1年分とさせていただきます。

平成22年度 1,200 円（1 年分）

お近くのゆうちょ銀行または郵便局より振替払込をお願いいたします。
 払込先：「シクリスムエコー 00140-4-152006」
 各加盟団体（都道府県車連）事務局や一部自転車関連施設にもこれまで通り送付いたしますので、ご来訪できる方はご利用ください。
 また、これまで通り、JCF ホームページにも掲載いたしますのでご覧ください。
 < <http://www.jcf.or.jp> >
 なお、JCF 維持会員（個人1万円・法人5万円/年間）の皆様へは無料でお送りいたします。

加盟団体事務局変更のお知らせ

● 愛知県自転車競技連盟

〒475-0024 愛知県半田市亀崎高根町3-107-5
 佐々木事務所内 TEL & FAX: 0569-29-0487
 bxdh.sasaki@nifty.ne.jp

事務局人事異動

局次長 ← 総務部長（平成22年4月1日付）
 山崎 史郎
 選手強化部課長補佐（平成22年3月31日付）
 菊地 貴（退任）

連盟の動き（2月中旬～3月上旬）

- | | | |
|-------|--------------------------------|--------------------------|
| 2月10日 | 平成21年度第10回広報部会 | 於：東京・日本自転車会館3号館3階 |
| 20日 | 平成21年度全国自転車競技指導者研修会 | 於：大阪・コンベンションルームA P大阪梅田 |
| 22日 | ウィメンズ・ツアー・オブ・ニュージーランド日本代表選手団出発 | → 帰国3/1 |
| 3月4日 | 平成21年度第3回総務委員会 | 於：東京・日本自転車会館3号館3階 |
| 5日 | 平成21年度第7回常務理事会・選手強化本部会 | 於：東京・日本自転車会館3号館4階 |
| 6日 | 平成21年度第1回シクロクロス小委員会 | 於：東京・日本自転車会館3号館3階 |
| 6日 | 平成21年度第3回登録競技者推進実行委員会 | 於：千葉・幕張 |
| 10日 | 平成21年度第4回強化委員会 | 於：東京・日本自転車会館3号館4階 |
| 12日 | 平成21年度第5回理事会 | 於：東京・日本自転車会館3号館4階 |
| 12日 | ツール・ド・タイワン日本代表選手団出発 | 於：チャイニーズタイペイ → 帰国3/21 |
| 18日 | 平成21年度第2回評議員会 | 於：東京・日本自転車会館2号館8階 |
| 19日 | トラック世界選手権大会日本選手団出発 | 於：デンマーク・コペンハーゲン → 帰国3/30 |

< JCF オフィシャル・スポンサー >



< JCF オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.168 2010年4月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟
 発行人/岩楯昭一
 編集人/井関康正
 編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局
 〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-3 日本自転車会館内
 TEL03-3582-3713 FAX03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>

